

# 平成30年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）人間生活系コース〕

プログラムの名称（和文）	人間生活教育プログラム
（英文）	Human Life Sciences Education
<p>1. 取得できる学位</p> <p>本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としている。単位数の内訳：教養教育40単位、専門基礎科目23単位、専門科目27単位、専門選択科目32単位、卒業研究6単位。</p>	
<p>2. 概要</p> <p>人間生活教育プログラムは、人間生活教育の原理、内容、方法について専門的な素養と教育実践力を有したうえで、理論と実践が融合した教育研究を行うことができる中学校・高等学校教員（家庭）の養成を目的としている。併せて、教育関係機関・施設等において人間生活教育に関連する業務に携わる専門の職員の養成も目指しています。そのために、本プログラムでは、教育に関する基礎的な理論、中・高等学校家庭科の内容及び家庭科教育の領域を深く関連づけて学習し、中等教育に携わるうえで必要な知識と技術を習得できるように工夫されています。</p> <p>卒業後は、さらに高度な専門性を追究するために、大学院（博士課程前期・後期）に進学し、研究者や高度な専門知識をもつ職業人を目指す道も開かれています。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>人間生活教育プログラムでは、人間生活教育についての専門的な資質・能力と実践力を修得し、学校教育並びに生涯教育において人間生活教育の理論と実践を融合してグローバルな視点で社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 時代の変化やグローバル社会に対応できる自立した生活者としての生き方や家庭生活および人間生活環境の創造に関わる教育実践力を身につけている。</p> <p>(2) 家庭を中心とした人間生活における課題を、物的環境、精神的環境、身体的環境さらには社会的環境といった多様な視点で考えることができるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として、教材、授業およびカリキュラムを創造することができる能力を身につけている。</p> <p>本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基礎として位置づけられ、人文科学、社会科学および自然科学に関する基礎的・基本的な内容を修得するとともに、外国語能力を向上させ、現代社会の要請に応える人間生活教育に関わる者として必要な総合的資質・能力を身につけます。</p>	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>人間生活教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。</p> <p>本プログラムは、教養教育のほかに、専門基礎科目と専門科目から成り、卒業研究を履修することによって到達目標が達成されます。</p>	

1年次には、専門教育を受ける準備段階として教養教育科目の学習が中心となります。人間生活教育を学ぶために必要な科学的な視点と教養および総合的資質・能力を身につけます。

2年次には、専門教育の基礎段階として専門基礎科目を中心とした各分野の専門科目において人間生活の課題を理解し多様な視点でとらえることができる能力と人間生活教育に関わる基本的な能力を身につけます。

3年次には、専門教育の発展段階として専門科目を中心に学習します。2年次の学習を発展させ、自立した生活者としての生き方や家庭生活および人間生活環境の創造に関わる教育実践力を身につけます。

4年次には、人間生活教育学、生活経済学、人間発達科学、住居学、食物学、アパレル科学から1研究領域を選択し、各自の研究テーマに即して卒業研究を進めます。学校教育並びに生涯教育において人間生活教育の理論と実践を融合してグローバルな視点で社会に貢献できる能力を身につけます。

学修の成果は、各教科の成績評価と共に本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

#### 5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次です。

#### 6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（家庭）・高等学校教諭一種免許（家庭）を取得できます。

教育プログラムの所定の科目を修得することにより、二級建築士受験資格（実務経験2年を必要とする）・フードスペシャリスト受験資格を取得できます。

特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能です。

#### 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

#### 8. 学習の成果

各学期末に、科目ごとの到達度を評価し、加重値を用いて算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を、評価項目ごとに「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。最終的なプログラム到達度評価はプログラム担当教員会で行う。

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

#### 9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

人間生活系教育領域である家庭科系教科教育、生活経営学内容領域、人間発達科学内容領域、住居学内容領域、食物学内容領域、アパレル科学内容領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各

自が選択する研究テーマに即して研究を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末には卒業論文を提出する。

#### ○配属時期と配属方法

3年次前期中に、卒業論文指導教員を決め、主要な研究領域を選択する。3年次後期以降、必要な授業科目のほか、主要な研究領域の学習を深め、4年次に卒業論文作成を行う。

### 10. 責任体制

#### (1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、主として教育学部の間人生活教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（人間生活教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム担当教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

#### (2) プログラムの評価

##### ○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

##### ○評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して4年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と人間生活系中等教員資格（家庭）の充足）による評価、および、実施した教員グループによる総合的な評価によって、行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては教員と研究者・専門職業人とにわけて考える。1）教員：学生の教員採用試験の合格率による評価、採用後の人間生活系教員（家庭科教員）としての成長度による評価として実施される。2）研究者・専門職業人：一般企業や研究機関において人間生活教育に関連する業務に関わる研究職・専門職への就職率、就職後の活動状況による評価として実施される。就職後の活動状況についても数年おきに調べ、量的、質的に総合的に評価する。

##### ○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当教員会において、プログラム内容の見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下の学年のプログラム運営・実施に反映させる。

教養教育科目履修基準表

第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)																	
						1年次		2年次		3年次		4年次											
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ										
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○																	
	大学教育基礎科目																						
	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○																	
	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○																	
	領域科目	人文社会科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○													
		自然科学系科目群	4	衣食住の基礎科学(注5)	2	選択必修	○																
	外国語科目	英語(注2)	コミュニケーション基礎	0	コミュニケーション基礎 I コミュニケーション基礎 II	1 1	選択必修																
			コミュニケーション I(注3)	4	コミュニケーション I A コミュニケーション I B	1 1		○ ○															
		コミュニケーション II(注3)	2		コミュニケーション II A コミュニケーション II B	1 1		○															
		コミュニケーション III		(0)	コミュニケーション III A コミュニケーション III B コミュニケーション III C	1 1 1	選択必修			○	○												
		-	0		コミュニケーション上級英語	1	自由選択	○	○														
		初修外国語	4	ベーシック外国語 I から2科目(注6)	1	選択必修	○																
				ベーシック外国語 II から2科目(注6)	1			○															
			(0)	インテンシブ外国語 I	1	自由選択	○																
			(0)	インテンシブ外国語 II	1	自由選択		○															
		(0)	海外語学演習	1	自由選択																		
	情報科目	2	情報活用基礎	2	必修	○																	
	健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○																
	社会連携科目	(0)		1又は2	自由選択	○	○																
	基盤科目(注7)	2	物理学実験法・同実験 I	1	選択必修		○																
			物理学実験法・同実験 II	1			○																
			化学実験法・同実験 I	1			○																
			化学実験法・同実験 II	1			○																
生物学実験法・同実験 I			1			○																	
生物学実験法・同実験 II	1		○																				
自由選択科目	10	(注8)	1~3	選択必修	○	○	○	○															
計	40																						

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習 I・II・III」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4：教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

注5：領域科目の自然科学系科目群「衣食住の基礎科学」を可能な限り履修すること。

注6：ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択すること。

注7：「物理学実験法・同実験」、「化学実験法・同実験」、「生物学実験法・同実験」のうちから1科目以上選択履修。なお、同一科目の「実験法・同実験 I (1単位)」と「実験法・同実験 II (1単位)」を履修すること。I または II のみの履修は認められない。

注8：外国語科目、領域科目、社会連携科目、基盤科目を対象とする。

## 学部履修基準

### 第四類（生涯活動教育系）

#### ○ 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	
教養教育	平和科目		2	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	
		教養ゼミ	2	
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	4
			自然科学系科目群	4
		外国語科目	英語	6
			初修外国語	4
		情報科目	2	
		健康スポーツ科目	2	
		社会連携科目	(0)	
基盤科目		2		
自由選択科目		10		
専門教育	専門基礎科目		23	
	専門科目		27	
	専門選択科目		32	
	卒業研究		6	
合計			128	

## 専門教育科目履修基準

### 第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数	開 設
専門基礎科目		23	人間生活系コース
専 門 科 目	人間生活教育学	27	
	生活経営学		
	人間発達科学		
	住居学		
	食物学		
	アパレル科学		
	選択科目		
専門選択科目		32	教育学部ほか
卒業研究		6	人間生活系コース

#### <履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、32単位まで認める。

第四類 人間生活系コース（人間生活教育プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修  
履修セメスター欄の○印は標準履修セメスター

区分	授業科目	開単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 基 礎 科 目	生涯活動教育論	②				○							類共通科目
	人間生活（家庭科）教育概論	②		○								教科の指導法（家庭）	
	家庭科教材構成論	②			○							〃	
	生活経営学	②		○								家庭経営学	
	保育学	②					○					保育学	
	家庭看護学	②				○						〃	
	住居学	②			○							住居学	
	食生活栄養学	②				○						食物学	
	調理科学	②					○					〃	
	調理学実習Ⅰ	①			○							〃	
	アパレル素材学	②			○							被服学	
アパレル設計学	②				○						〃		
専 門 科 目	人間生活教育学	人間生活（家庭科）教育演習	2					○				教科の指導法（家庭）	
		家庭科授業論Ⅰ	2		○							〃	
		家庭科授業論Ⅱ	2			○						〃	
		家庭科教育方法・評価論	2				○					〃	
		人間生活教育史	2				○					教科又は教職に関する科目	
	生活経営学	生活経済学	2			○						家庭経営学	
		家族関係学	2						○			〃	
	人間発達科学	生涯発達学	2		○							保育学	
	住居学	住居環境学	2				○					住居学	
		住居計画学	2					○				〃	
		設計製図	1			○						〃	
		住居設計演習Ⅰ	2					○				〃	
		住居設計演習Ⅱ	2						○			〃	

区分	授業科目	開 単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 科 目	住 居 学	建築材料	2				○							工学部
		建築一般構造	2			○								工学部
		建築構造力学 I	4			○								工学部
		建築行政	2					○						工学部
		建築施工	2					○						工学部
		建築設備 I	2					○						工学部
		建築設備 II	2						○					工学部
		建築生産マネジメント	2						○					工学部
	食 物 学	フードスペシャリスト論	2		○								食物学	
		食品科学	2				○						〃	
		食品材料学	2					○					〃	
		食品鑑別論	2					○					〃	
		調理学実習 II	1				○						〃	
		フードコーディネート論	2						○				〃	
		食品衛生学	2				○							生物生産学部
		農産食品学	2					○						生物生産学部
		食物学実験	1					○					食物学	
	ア パ レ ル 科 学	アパレル管理科学	2				○						被服学	
		アパレル設計学実習	1					○					〃	
		服飾デザイン論	2					○					〃	
		色彩論	2		○								〃	
	選 択 科 目	家庭機械及び家庭電気	2						○				教科又は教職に関する科目 (中学のみ) 家庭電気・機械及び情報処理 (高校のみ)	
		情報処理	2			○							家庭電気・機械及び情報処理 (高校のみ)	
		人間生活研究法	2				○							





## 各学年の履修基準（進級基準）

### 第1学年

- ・教養科目を30単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・専門科目を2単位以上, 取得していることを目標とする。

### 第2学年

- ・教養科目を累計36単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・専門科目を累計38単位以上, 取得していることを目標とする。
- ・この履修基準に達しない場合, 原則として卒業研究の研究室配属を認めない。

### 第3学年

- ・教養科目を累計40単位以上, 取得していること。
- ・専門科目を累計76単位以上, 取得していること。
- ・この基準に達していない場合, 4年生への進級を認めない。

### 第4学年

- ・卒業に必要な教養科目を 40単位以上, 取得していること。
- ・卒業に必要な専門科目を 88単位以上, 取得していること。

## 人間生活教育プログラムにおける学習の成果

## 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 人類や社会が抱える歴史的・現代的課題についての知識, 理解	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について, 多角的な視点から深く考察し, 適切に説明することができる。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について, 多角的な視点から考察し, 適切に説明できる。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について, 多角的な視点から考え説明できる。
	(2) 様々な学問領域について, その形成・発展過程, および文化・社会との関わりについての知識・理解	様々な学問領域について, その形成・発展過程, および文化・社会との関わりについて深く理解し適切な説明をすることができる。	様々な学問領域について, その形成・発展過程, および文化・社会との関わりについて理解し説明することができる。	様々な学問領域について, その形成・発展過程, および文化・社会との関わりについて説明することができる。
	(3) 中等教育に関する基本的な理解	中等教育について十分な理解をもっており, この理解に基づいてこれらの教育の問題点と課題を指摘し, さらに改善策を示すことができる。	中等教育に関する理解をもっており, この理解に基づいてこれらの教育の問題点と課題を指摘することができる。	中等教育に関する基本的な理解ができています。
	(4) 生涯活動教育に関する基本的な理解	生涯活動教育について十分な理解をもっており, この理解に基づいてこれらの教育の問題点と課題を指摘し, さらに改善策を示すことができる。	生涯活動教育に関する理解をもっており, この理解に基づいてこれらの教育の問題点と課題を指摘することができる。	生涯活動教育に関する基本的な理解ができています。
	(5) 青年期の子どもに関する基礎的な理解	青年期の子どもに関する基礎的な理解を十分もっており, この理解に基づいて青年期の教育の問題点と課題を指摘し, さらに改善策を示すことができる。	青年期の子どもに関する基礎的な理解をもっており, この理解に基づいて青年期の教育の問題点と課題を指摘することができる。	青年期の子どもに関して基礎的な理解ができています。
	(6) 中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識	中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識を十分もっており, それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識をもっており, それらの理解を総合化することができる。	中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている。
	(7) 人間生活系内容領域の理論と方法に関する基本的な知識	人間生活系内容領域の教育内容に関する基本的な知識をもっており, それらの理解を批判的に総合化することができる。	人間生活系内容領域教育内容に関する基本的な知識をもっており, それらの理解を総合化することができる。	人間生活系内容領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている。
	(8) 中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識	中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的知識が身に付いており, 先行研究の検索と考察に基づいて研究課題を適切に設定することができる。	中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的知識が身に付いており, これに基づいて先行研究を検索することができる。	中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識が身に付いている。
	(1) 基礎的な方法で資料を収集でき, 特定の事象から課題を発見し説明できるとともに, 論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行う能力	基礎的な方法で資料を収集でき, 特定の事象から課題を発見し説明できるとともに, 論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	基礎的な方法で資料を収集でき, 論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	基礎的な方法で資料を収集でき, 論拠を明らかにした議論やプレゼンテーションを行うことができる。
	(2) 英語を活用して, 口頭や文書で日常的なコミュニケーションをおこなう能力	英語を活用して, 口頭や文書で日常的なコミュニケーションを十分に図ることができる。	英語を活用して, 口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	英語を活用して, 口頭や文書で日常的なコミュニケーションを或る程度図ることができる。
	(3) 複数の外国語を活用して, 他国の言語や文化を理解する能力	複数の外国語を活用して, 他国の言語や文化を十分理解できる。	複数の外国語を活用して, 他国の言語や文化を理解できる。	複数の外国語を活用して, 他国の言語や文化を或る程度理解できる。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
能力・技能	(4) 情報に関する基礎的知識・技術をもつとともに、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明する能力	情報に関する基礎的知識・技術をもつとともに、情報を活用するためのモラルと社会的課題について十分理解し、適切に説明できる。	情報に関する基礎的知識・技術をもつとともに、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明することができる。	情報に関する基礎的知識・技術をもつとともに、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解することができる。
	(5) 体力・健康づくりの科学的理解と、スポーツを楽しむ意義、マナー・協調性などの理解と実践	体力・健康づくりの必要性を科学的に説明でき、スポーツ実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	体力・健康づくりの必要性を説明でき、スポーツ実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	体力・健康づくりの必要性を説明でき、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解することができる。
	(6) 人間生活教育学の基盤となる実験技術・知識の理解と習得	人間生活教育学の基盤となる実験技術・知識を十分に理解し習得し、それを使うことができる。	人間生活教育学の基盤となる実験技術・知識を理解し習得し、或程度それを使うことができる。	人間生活教育学の基盤となる実験技術・知識を理解・習得し、説明できる。
	(7) 中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集、読解し、結論を導き出す能力	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を幅広く適切に収集し、十分に読解し、総合的かつ実践的視点に立ち優れた結論を導き出すことができる。	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を適切に収集し、十分に読解し、適切な結論を導き出すことができる。	中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集し、読解し、結論を導き出すことができる。
	(8) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出す能力	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、批判的かつ的確に分析・検討し、総合的視野に立って問題点を把握し、建設的かつ実践的な解決策を導き出すことができる。	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、的確に分析・検討し、十分に問題点を把握し、適切な解決策を導き出すことができる。	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出すことができる。
	(9) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決する能力	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、批判的かつ的確に文献や資料を吟味・検討し、建設的かつ実践的な解決策を導き出すことができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、十分に文献や資料を吟味・検討し、適切な解決策を導き出すことができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決策を導き出すことができる。
	(10) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解する能力	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、総合的批判的に読解することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ読解することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。
	(11) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討する能力	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、十分に分析・検討することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、分析・検討することができる。
	(12) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討する能力	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる。	中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる。
	(13) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、効果的に使用するとともに、創造的に活用することができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、効果的に使用、発揮することができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能を確実に身につけ、実際に使用できる。
(1) 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べる能力	多角的な視点から平和について深く考え、自分の意見を適切に述べる能力	多角的な視点から平和について考え、自分の意見を適切に述べる能力	多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べる能力	

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
総合的な力	(2) 個人やチームにおいて、調査・実験等を企画・立案し、実行して成果をまとめる能力	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を適切に企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる。	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、効果的に実行し、その成果をまとめることができる。	個人やチームにおいて、調査・実験等の研究を企画・立案し、実行し、その成果をまとめることができる。
	(3) 研究や教育活動において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションする能力	研究、教育活動、発表の場において、コミュニケーションを十分に確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いて的確にプレゼンテーションすることができる。	研究、教育活動、発表の場において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションすることができる。	研究、教育活動、発表において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、プレゼンテーションすることができる。
	(4) インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使用できるとともに、基礎的な統計処理や表現ができるIT活用能力	インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使いこなせるとともに、ITを用いて、基礎的な統計処理や表現が適切にできる。	インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使いこなせるとともに、ITを用いて、基礎的な統計処理や表現ができる。	インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使用できるとともに、ITを用いて、基礎的な統計処理や表現ができる。
	(5) 協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度(社会性・協同性)	協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを適切に作り出したり改善したりする態度をもっている。	協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている。	協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度をもっている。
	(6) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案する能力	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを批判的に分析し、適切にデザインし、立案することができる。	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを十分に分析し、デザインし、立案することができる。	人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案することができる。
	(7) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発する能力	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を批判的に分析し、適切に開発することができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を十分に分析し、開発することができる。	人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発することができる。
	(8) 中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画、設計、実行し、その結果を分析・検討する能力	中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を総合的に批判的に分析・検討し、その意義を的確に示すことができる。	中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。	中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関わる研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。

## 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

人間生活教育プログラムにおける教養教育の到達目標は次のとおりです。価値観の多様化や社会構造の変化に柔軟に対応し、なおかつ教育界に生じる新たな課題に的確に対処できる広い視野と実行力を備えた人間的、社会的素養を身につけることを目標としています。そのためには、自然的環境や社会的環境における客観的事実やその多面性を十分に理解するとともに、歴史的変遷によるさまざまな現象の変化を概観し、大局に立ったものの見方を身につける学習を行います。さらに、人類が築き上げてきた知の蓄積を理解し、人類が直面する課題の所在を的確に把握し、さまざまな専門的、学際的な知識を個別にあるいは総合的に活用して、これを解決する能力を身につけます。



人間生活教育プログラムカリキュラムマップ

学習の成果		1年		2年		3年		4年		
評価項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	(1) 人類や社会が抱える歴史的・現代的課題についての知識、理解				生涯活動教育論(◎)					
	(2) 様々な学問領域について、その形成・発展過程、および文化・社会との関わりについての知識・理解	領域科目(Δ)	領域科目(Δ)	領域科目(Δ)	領域科目(Δ)					
	(3) 中等教育に関する基本的な理解		家庭科授業論I(Δ)	家庭科授業論II(Δ)						
	(4) 生涯活動教育に関する基本的な理解		生涯発達学(Δ)			保育学(◎)				
	(5) 青年期の子どもに関する基礎的な理解		生涯発達学(Δ)							
	(6) 中等人間生活系教育の理論と方法に関する基本的知識		家庭科授業論I(Δ)	家庭科教材構成論(◎)	家庭科教育方法・評価論(Δ)					
	(7) 人間生活系内容領域の理論と方法に関する基本的な知識			生活経営学(◎)	生活経済学(Δ)	家庭看護学(◎)	保育学(◎)	家族関係学(Δ)		
				フードスペシャリスト論(Δ)	アパレル素材学(◎)	食生活栄養学(◎)	住居計画学(Δ)	家庭機械及び家庭電気(Δ)		
			色彩論(Δ)		食品科学(Δ)	食品鑑別論(Δ)				
					アパレル管理科学(Δ)	食品鑑別論(Δ)	調理科学(◎)			
(8) 中等人間生活系教育および人間生活系内容領域の研究を行うための基本的な知識		生涯発達学(Δ)	住居学(◎)	住居環境学(Δ)		食物学実験(Δ)				
能力・技能	(1) 基礎的な方法で資料を収集でき、特定の事象から課題を発見し説明できるとともに、論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行う能力	大学教育入門(◎) 教養ゼミ(◎)	人間生活(家庭科)教育概論(◎)							
	(2) 英語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションをおこなう能力	英語(O)	英語(O)	英語(O)	英語(O)					
	(3) 複数の外国語を活用して、他国の言語や文化を理解する能力	初修外国語(O)	初修外国語(O)							
	(4) 情報に関する基礎的知識・技術をもつとともに、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明する能力	情報科目(O)								
	(5) 体力・健康づくりの科学的理解と、スポーツを楽しむ意義、マナー・協調性などの理解と実践	健康スポーツ科目(O)	健康スポーツ科目(O)							
	(6) 人間生活教育学の基礎となる実験技術・知識の理解と習得	基礎科目(Δ)	基礎科目(Δ)							
	(7) 中等教育および生涯活動教育に関する問題意識をもち、関連する資料・情報を収集、読解し、結論を導き出す能力				アパレル設計学(◎)					
	(8) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムについて、分析・検討し、問題点を把握し、解決策を導き出す能力			家庭科授業論II(Δ)	家庭科教育方法・評価論(Δ)					
	(9) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連した教育課題について、文献や資料を吟味・検討し、解決する能力				人間生活教育史(Δ)					
	(10) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる		フードスペシャリスト論(Δ)	調理学実習I(◎)	人間生活研究法(Δ)		フードコーディネータ論(Δ)			
	(11) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討する能力		生活経営学(◎)				住居設計演習I(Δ)			
	(12) 中等教育および生涯活動教育の人間生活系内容領域に関連した研究課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討する能力		生活経営学(◎)							
	(13) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育に関連する多様な生活技能の習得		色彩論(Δ)	調理学実習I(◎)	調理学実習II(Δ)	保育学(◎)	住居設計演習II(Δ)			
総合的な力	(1) 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べる能力	平和科目(O)								
	(2) 個人やチームにおいて、調査・実験等を企画・立案し、実行して成果をまとめる能力				人間生活研究法(Δ)			卒業論文(◎)		
	(3) 研究や教育活動において、コミュニケーションを確保し、成果や発表内容をまとめ、多様な手段を用いてプレゼンテーションする能力		家庭科授業論I(Δ)			人間生活(家庭科)教育演習(Δ)	住居設計演習II(Δ)			
	(4) インターネット、データベース、表計算、ワープロといったITを使用できるとともに、基礎的な統計処理や表現ができるIT活用能力	情報科目(O)		情報処理(Δ)			住居設計演習I(Δ)			
	(5) 多くの人々と協同して様々な課題に取り組み、チームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよいものを作り出したり改善したりする態度(社会性・協同性)				調理学実習II(Δ)		フードコーディネータ論(Δ)			
	(6) 人間生活系教育のカリキュラムや授業および人間生活に係わる生涯活動教育のプログラムを分析し、デザインし、立案する能力			家庭科教材構成論(◎)						
	(7) 人間生活系教育および人間生活に係わる生涯活動教育の内容や教材を分析し、開発する能力					人間生活(家庭科)教育演習(Δ)				
	(8) 中等教育、生涯活動教育およびそれらの人間生活系内容領域に関する研究を計画、設計、実行し、その結果を分析・検討する能力				人間生活研究法(Δ)		食品鑑別論(Δ)			
						食物学実験(Δ)				

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎) 必修科目 (○) 選択必修科目 (Δ) 選択科目

## 別紙5

### 人間生活教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
今川 真治	教授	6850	B603	imakawa@
鈴木 明子	教授	6851	B707	suzuaki@
村上 かおり	教授	6858	B607	murakao@
横田 明子	教授	7163	B605	yokota@
高田 宏	准教授	6855	B702	takatah@
富永 美穂子	准教授	未定	未定	未定
松原 主典	准教授	6854	B504	kmatsuba@
梶山 曜子	助教	6852	B510	yokokaji@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。